とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
雲・空

【設定理由】
保育室の窓から外を見ていた子どもが雲を見つけ、雲が動くことや、天気が悪い日の雲の色が違うことを発見したことをきっかけにテーマとして設定することにした。実際に雲の写真を撮って日による変化を感じたり、時間によって空の色が変わることも子どもが空を見て気付いたので、子どもの興味関心をより深めたいと思った。

【活動スケジュール】
2025年6月以降　「そら図鑑」「くものなまえ」「そらのいろ」の本を購入
実際の空と絵本を見比べながら興味をさらに深め、観察を楽しむ。
雲はどんな動きをするのか、時間によって空の色はどのように変化するのか、どんな形の雲があるのか観察する。
子どもが日頃から好きなときに本や空を見て楽しめるようにする。

2025年10月8日(水)17:00～　空の色の観察

【準備する素材や道具、環境設定等】
・「そら図鑑」(本)
・「くものなまえ」(本)
・「そらのいろ」(本)
・空が見える環境を整える
　※窓の近くで自由に観察を楽しめるようにする。

【活動①】

17:00　　遊びの中で窓から見える空の色の変化に気付く
「そら図鑑」「くものなまえ」「そらのいろ」を見て空や雲の様子を観察する
17:30～18:00　空の色が少しずつ変化していることに気付く（暗くなったことに気付く）

【活動①の子どもの様子】
・空の色が少しずつ変わっていく様子を見て、嬉しそうに保育者に教える姿が見られた。
・「先生！お空がピンクになってきた！」とどんな色になったか、時間の経過とともに変化を楽しんでいる様子だった。
・暗くなって、空の色の変化とともに雲がなくなったことを発見していた。雲が見えなくなると、「おーい！雲さーん！」「戻ってきて～！」「お家に帰ってきて～！」と空に向かって話をしていた。
・図鑑を見ながら、今はどの時間帯の空なのか一緒に図鑑から探す場面が見られた。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・以前から空に興味を持っていたこともあり、この日は子ども達から空を見て思ったことを言葉にして伝える姿が見られた。子どもの小さな気づきに保育者が気付き、共感し、子どもの興味を広げていけるような声かけを大切にしたいと思った。
・興味を持ったらいつでも調べることができるように、子どもの近くに図鑑や写真絵本を用意しておくなど、環境設定を工夫したい。
・今後は散歩に行った際に空の様子を観察する機会をつくったり、見つけた雲を写真に撮って子どもと様子を振り返ってみる機会もつくっていきたいと思った。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
雲・空

【設定理由】
保育室の窓から外を見ていた子どもが雲を見つけ、雲が動くことや、天気が悪い日の雲の色が違うことを発見したことをきっかけにテーマとして設定することにした。実際に雲の写真を撮って日による変化を感じたり、時間によって空の色が変わることも子どもが空を見て気付いたので、子どもの興味関心をより深めたいと思った。

【活動スケジュール】
2025年6月以降　「そら図鑑」「くものなまえ」「そらのいろ」の本を購入
実際の空と絵本を見比べながら興味をさらに深め、観察を楽しむ。
雲はどんな動きをするのか、時間によって空の色はどのように変化するのか、どんな形の雲があるのか観察する。
子どもが日頃から好きなときに本や空を見て楽しめるようにする。

2025年10月8日(水)17:00～　空の色の観察

2026年1月20日(火)10:30～　プラネタリウム
※みなと科学館にて「はじめての星空さんぽ」観賞

【準備する素材や道具、環境設定等】
みなと科学館へ行く(持ち物・・散歩の用意)
チケット代大人　　1200　円(2名分)
子ども　なし
※プラネタリウムにて
星空が見えやすい位置に子どもが座れるようにする。

リクライニングの使い方を伝える。
プラネタリウム鑑賞中の子ども達の様子を気に掛ける。（見えやすい姿勢か、暑さ調整など）

【活動②】

2026年1月20日（火）
10：10　保育園出発
10：20　みなと科学館到着
10：30　プラネタリウム鑑賞開始　プログラム「はじめての星空さんぽ」
11：00　プラネタリウム終了
11：20　帰園

【活動②の子どもの様子】
・プラネタリウムに行く前に、「そら図鑑」で、星のイラストや写真を見て興味を持つ子もいた。
・日頃から空や雲の様子に興味を持ち、夜になると暗くなったり月が出ていることにも気付く子が多かったので、プラネタリウムの中で空の様子が上映されると興味を持って見ていた。
・プラネタリウムの中で知っている街並みが出てくると、声を出して教えてくれる姿も見られた。プラネタリウムのプログラムが幼児向けでお話をしても大丈夫な内容だったので、リラックスして見ることができていた様子だった。
・空にある月や雲は見慣れた子が多かったが、星はあまり見慣れていない様子だったため、星が出てくると見入っていた。
・各星座の紹介と、一つ一つの星座が動きながら次の星座が出てくる場面では、動く様子に驚いたのか、「怖い」と言う子もいた。
・お迎えの際に保護者に楽しかったことを伝えたり、活動報告の写真を見て、プラネタリウムの話を友達同士で話す場面も見られた。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・空と雲に興味を持っていたことで、夜空にある星にも興味を持っていたように思う。図鑑や写真絵本の中に星を題材にしたものが少なかったので、今後プラネタリウムを見に行く際は、星についてもさらに興味を深めた上で行けるといいと思った。
・プラネタリウムの会場では一列に座ったが、真ん中の子どもとの距離が遠かったので、二列にしたり、子どもの座る位置や順番をあらかじめ決めておくとスムーズだった。（途中、怖いと言っていた子もいたので）
・子どもが空にある何かを見つけたときは、子どもの発見に気付き、一緒に図鑑で探したりす

るなど、さらに興味関心が深まるように保育者の関わりを工夫していきたい。子どもの言葉から次の遊びが広がっていくような保育者の声かけや、遊びの環境設定を大切にしていきたい。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
生き物

【設定理由】
園で飼っていたカブトムシ（2歳児の子ども達も成長を楽しみにしていた）がさなぎの状態で死んでしまった。以前より虫に興味を持っていた子ども達だが、ダンゴムシを潰してしまおうとしたり、アリを踏んでしまおうとしたりする姿が散歩の際に見られたので、「命」についてしっかりと子どもと向き合いたいと思い、設定した。

【活動スケジュール】
2025年6月18日（水）朝、さなぎだったカブトムシが死ぬ
6月18日（水）15：30
カブトムシが死んでしまったことについて2歳児の子ども達に伝える
6月18日（水）15：45
園のガーデンの隅に死んでしまったカブトムシを埋めに行く。
（2歳児の子ども達と）

【準備する素材や道具、環境設定等】
<u>素材、道具など</u>
・カブトムシ（幼虫から園で飼っていたカブトムシ）と虫かご
・カブトムシの成長過程のイラスト
・シャベル（土に埋める用）
・携帯（写真撮影用）

<u>環境設定</u>
・カブトムシが死んでしまったことについて落ち着いて話が聞ける環境（今回はホワイエにて）
・カブトムシを埋める場所（ミライズガーデンの隅）

【活動①―1】
カブトムシが死んでしまったことを子ども達に伝える
（「死」についてはっきりと伝える、もう会えないことを伝える）

【活動①―1の振り返り】
「どうして死んでしまったのかな」という問いに対して、
「アリに踏まれちゃったのかな」「どこかにぶつけて痛かったのかもしれない」と子ども達なりに真剣に考えていた。
「死んでしまった」という言葉と、「もう会えない」という言葉を子ども達なりに受け止めて、
「もう会えないの？」「さみしいね」と言葉にする子もいた。

【活動①―2】
カブトムシをミライズガーデン（園の植栽用の庭）の隅の土に埋める
（シャベルを使って保育者が最後にカブトムシを見せて、土に埋める）

【活動①―2の振り返り】
保育者がカブトムシを埋める様子を真剣に見ていた。
「バイバイ」「ありがとう」「ゆっくり休んでね」と声をかける子もいた。
言葉にはならないが、様子をじっと見つめて観察している子もいた。
何名かが室内に戻る準備をしている中、最後まで土の前にしゃがみ込み、手を振ったり「ありがとう」と声をかけたりする子もいた。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・2歳児だから難しいかも、と決めつけず、2歳児なりに考えていくことも出来ることに気付いた。今後も子ども達と一緒に考える機会をつくっていきたい。
・思っている以上に子ども達はとてもよく考えることができていた。子どもが自ら考えられるような言葉かけができるようにしていきたい。
・今回の出来事や活動は、今後の日常生活の中でも続いていくものなので、どんなやりとりがあって、子ども達がそれぞれどのように考えていたか等、保育者間でしっかりと共有しあって、同じような言葉かけ、保育ができるようにしていきたい。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
生き物

【設定理由】
園で飼っていたカブトムシ（2歳児の子ども達も成長を楽しみにしていた）がさなぎの状態で死んでしまった。以前より虫に興味を持っていた子ども達だが、ダンゴムシを潰してしまおうとしたり、アリを踏んでしまおうとしたりする姿が散歩の際に見られたので、「命」についてしっかりと子どもと向き合いたいと思い、設定した。

【活動スケジュール】
活動①2025年6月18日（水）朝、さなぎだったカブトムシが死ぬ
6月18日（水）15：30
カブトムシが死んでしまったことについて2歳児の子ども達に伝える
6月18日（水）15：45
園のガーデンの隅に死んでしまったカブトムシを埋めに行く。
（2歳児の子ども達と）
※カブトムシの活動後、散歩帰りに鳥を見つけ、鳥について調べたい子もいたため、「とり図鑑」を購入。生き物に興味を持つ子も増えたため、海や陸の生き物が多く載っている「いきもの図鑑」を購入。

活動②2025年10月21日（火）10：00　みなと科学館企画展「ちがうってふしぎ！」

【準備する素材や道具、環境設定等】
・保育室に「とり図鑑」「動物図鑑」「とり図鑑」を用意する（遊びの中で自由に見れるようにする）
・みなと科学館の企画展「ちがうってふしぎ」の絵本を用意する（科学館にて無料提供）
・科学館へ出発する前に、「ちがうってふしぎ」の絵本を読む
・散歩リュック（救急セット、帽子、水分補給の用意など）

・携帯電話（写真撮影用）
・みなと科学館にて館内の約束事を伝える

【活動②】

9：45　園内にて「ちがうってふしぎ」の絵本の読み聞かせを行う
　　園出発
10：00　みなと科学館到着
　　企画展「ちがうってふしぎ！」
11：00　帰園

【活動②の子どもの様子】
・犬と猫の違いについてのクイズは、イラストが描いてあったので興味を持って見ていたが、クイズの内容は難しく、イラストをめくることを楽しんでいた様子だった。
・絵本コーナーにあった犬と猫についての様々な絵本に興味を持ち、保育者に読んでほしいとリクエストする姿が見られた。読み聞かせを行うと、集中して見ていた。
・犬のぬいぐるみが置いてあり、手触りがよく、嬉しそうに触って可愛がっている様子だった。
・クイズや展示などで分からないことがある際は、保育者に積極的に質問する姿が見られた。

【活動②を振り返って得た保育士の気付き】
・日頃から犬などの生き物に興味を持っていたので、今回の企画展も積極的にパネルに近付いて見てみようとする姿が見られた。今後は散歩で生き物に出会った際は、園戻ってから図鑑で調べる機会をつくるなど、より生き物に親しめるように工夫していきたい。
・暖かくなると公園で虫を発見できる機会も増えるので、虫はどんなところにいるのか、子どもの興味に合わせて虫の観察ができるようにしていきたい（昆虫図鑑も活用する）。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
音

【設定理由】
保育室には手作り玩具のマラカスがあり、日常的に音に親しめる環境である。また、保育者がピアノを弾くと興味を持ち、実際にピアノに触れて弾いてみたり、タンバリンや鈴など本物の楽器遊びの際は積極的に楽器に触れて自分でやってみようとする姿が見られる。
今回は本物の楽器だけでなく、身の回りに当たり前のようにある「音」について改めて子どもが考えられる機会をつくっていきたいと思った。どんな音があるのかを考えたり新たに発見したりする中で、自分たちで集めたものがどんな「音」を作り出していけるのか、子どもの探求心を育てていきたいと思い、「音」の活動を行うことにした。

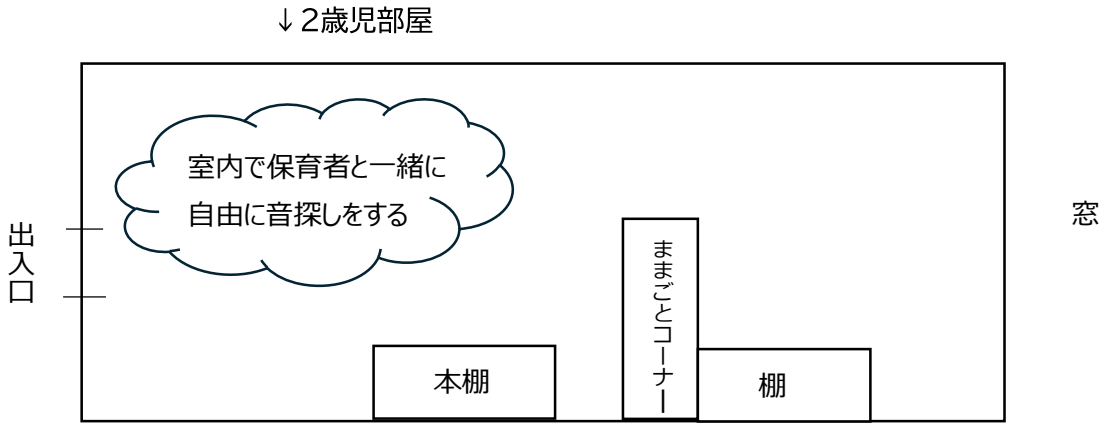
【活動スケジュール】
2025年9月以降　「どんなおと？」絵本購入
絵本の読み聞かせを通じて、音に興味関心を持つ
保育園に新しいピアノが届く。ピアノに実際に触れて弾いてみる
保育者が弾くピアノに合わせて楽器遊びをする
落ち葉を探して握ったときの落ち葉の「パリパリ」という音を楽しむ

2025年12月2日(火)10:00～　音遊び
（室内にある音探し、戸外にて楽器作りに向けて木の実探し）

[活動①]

【準備する素材や道具、環境設定等】
・導入絵本「どんなおと？」
・箱（プラスチック）2種類
・箱（缶）数種類
・箱（紙）1種類
・箱の中に入れる小さい玩具（ブロック、毛糸、積み木など）
・手作り玩具のマラカス

※活動部屋
　2歳児部屋にて活動



※活動場所（戸外）　城山プラザ公園周辺（園周辺ビル）
・散歩リュック
・散歩先に持って行く木の実入れ（缶）2種類

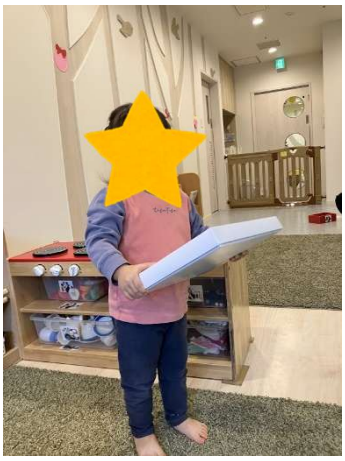
【内容】
2025年12月2日（火）10：00～
音遊び（室内にて音探し、戸外にて楽器作りに向けて木の実探し）
①　導入：絵本「どんなおと？」

② 音遊び：室内にある様々な音を探す（入れ物に物を入れて音を出す、壁や床を叩いてみる）
※保育者が見本として入れ物に色々な物を入れて、音を出してみる
※保育者壁や床を手のひらで叩いたり、手を握って叩いたりして音の違いを感じる
※床を手や足を使って叩いたり力強く踏んだりしながら、音の違いを感じる
③実際に室内で音探しをする、音を出してみる
※好きな入れ物に色々な物を入れてみる（小さいブロック、小さい積み木、毛糸など）
④子どもに今後の活動（楽器を作る）ことを伝え、それに向けて戸外活動の目的（楽器作りに使えそうな色々な木の実を探しに行くこと）を伝える
⑤戸外（園周辺）に散歩に行き、木の実探しをする
実際に見つけたもの
※形や大きさの違うドングリとドングリの帽子、花の種や蕾、丸い小さい木の実

【子どもの様子・振り返り】
・導入の絵本の内容に興味を持ち、実際に手を叩いてみたり、音を想像しながら積極的に言葉を発する姿が見られた。
・普段意識的に壁や床を叩く機会がないため、保育者がやってみると興味津々に見る子が多かった。また、すぐに一緒にやってみようとする子もいた。
・室内の活動の際、入れ物に入れる物は保育者が入れている物を見て、模倣して入れる子が多かった。保育者が他の物を提案すると入れてみる姿が見られた。
・普段の生活や遊びの中で、身近に缶の入れ物がなかったので、今回の活動で缶が登場すると缶を使いたい子が集中していた。その中でトラブル（普段見ないものだったので使いたい気持ちが強く、順番に使えないなど）も起こった。子どもが自由に入れ物を選べるように、入れ物の種類や数を多く用意したほうがよかった。
・音探しに慣れてくると、自ら好きな玩具を選んで箱に入れる姿が見られた。
・戸外では地面にドングリがなかなか落ちていなかったが、植え込みの中にたくさん落ちているのを見つけ、夢中になって集めていた。また、友達が実やドングリを見つけると「何があったの？」と積極的に関わりに行く姿が見られた。
・園周辺のドングリ探しをした場所は坂道になっていて、下り坂で夢中になって走ると転んで怪我をする恐れがあった。木の実集めをする前に事前に安全に探すための約束事を子どもに伝えたほうがよかった。
・ドングリを探す中で植え込みに落ちていたカラフルな錠剤を拾ってしまった子がいた。保育者があらかじめ探す場所を点検しながら安全に遊べるようにしたい。
・椿が綺麗に咲いている様子を見て、落ちていない蕾まで取ろうとしてしまう子もいた。
・保育者が持ってきていた箱に拾った直後の実を入れると、玩具を入れたときとは違う音が出

て興味を持っている子が多かった。
・活動の終わりには「もっとドングリ探したい」とまだ木の実探しを続けたいことを教えてくれる子もいた。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・ピアノやタンバリン、鈴などの本物の楽器には触れたことはあったが、身の回りの「音」について考える機会はなかったので良い経験になった。音が聞こえると耳を澄ませて聞いてみようとしたり、音の違いや変化に気付く子どもも多かったので、今後も「音」への子どもの気付きを大切にしながら保育をしていきたい。
・室内での音探しの活動では、子どもも意欲的に探していたので、音につながる素材、音をつくることができる入れ物などをもう少し用意をしておきたかった。色々な素材の物を用意しておくことで、子どもが自ら「やってみたい」という気持ちになり、活動の幅も広がっていったと思う。今後音探しの活動をする際は、事前に子どもの言動を想像・想定しながら活動を発展していけるようにしたい。



とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
音

【設定理由】
保育室には手作り玩具のマラカスがあり、日常的に音に親しめる環境である。また、保育者がピアノを弾くと興味を持ち、実際にピアノに触れて弾いてみたり、タンバリンや鈴など本物の楽器遊びの際は積極的に楽器に触れて自分でやってみようとする姿が見られる。
今回は本物の楽器だけでなく、身の回りに当たり前のようにある「音」について改めて子どもが考えられる機会をつくっていきたいと思った。どんな音があるのかを考えたり新たに発見したりする中で、自分たちで集めたものがどんな「音」を作り出していけるのか、子どもの探求心を育てていきたいと思い、「音」の活動を行うことにした。

【活動スケジュール】
2025年9月以降　「どんなおと？」絵本購入
絵本の読み聞かせを通じて、音に興味関心を持つ
保育園に新しいピアノが届く。ピアノに実際に触れて弾いてみる
保育者が弾くピアノに合わせて楽器遊びをする
落ち葉を探して握ったときの落ち葉の「パリパリ」という音を楽しむ

活動①2025年12月2日(火)10:00～　音遊び
（室内にある音探し、戸外にて楽器作りに向けて木の実探し）

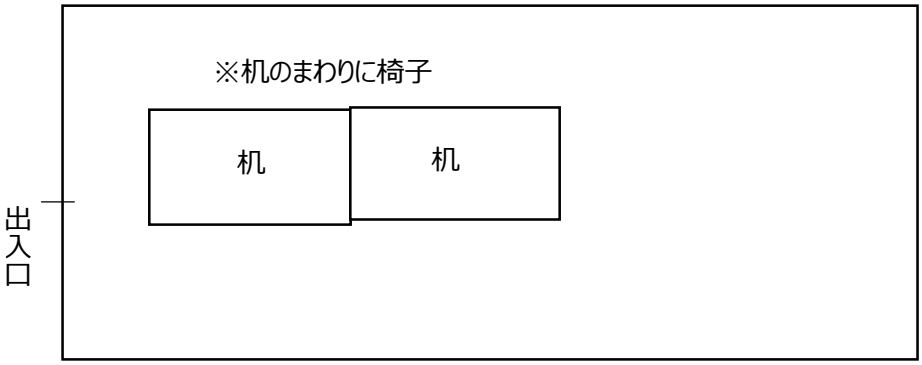
活動②2026年2月12日(木)9:45～　楽器作り
（身近にある材料を使って自分だけの楽器を作る、音の違いを感じる）

［活動②］

【準備する素材や道具、環境設定等】
・導入絵本「どんなおと？」
・机2台
・椅子5脚
・紙皿（ボウル状）　複数枚
・プラスチックコップ　複数個
・R1ボトル　複数個
・丸い空き容器
・プラスチックスプーン　複数個
・封筒
・プラスチックの小袋
・携帯電話（撮影用）
・タブレット（音響用）

〈中に入れる材料〉
・砂
・小石
・米（炊飯前のもの）
・ストロー（2～3cmに切ってあるもの）
・春雨（3～4cmに切ってあるもの）
・ポップコーン（調理前のもの）
・ドングリ

※活動部屋
　2歳児部屋（机と椅子を用意する）、机に材料を用意する



【内容】
2026年2月12日(木)9:45～
楽器作り(様々な材料を空き容器に入れて楽器を作る、入れた物によって音の違いを感じる)
① 導入:絵本「どんなおと？」
② 楽器作りに向けての話
※何の容器を使うか、中身はどんなものを入れるか、どうやって入れるか、約束事など
③ 楽器作り
※使いたい容器、入れたい材料を決める。自由に容器に入れていく
④ 完成した楽器を鳴らしてみる
⑤ 音楽に合わせて楽器を鳴らす
⑥ 園にいる職員に声をかけ、ミニ演奏会をする 「おもちゃのチャチャチャ」

【子どもの様子・振り返り】
・以前、楽器を作るために木の実拾いをしたことを覚えていた。前回、色々な箱を使ってどんな音がするのかを実験したことを覚えていて、教えてくれる子もいた。
・楽器に使う材料を並べると興味津々に話を聞き、何を入れようかわくわくしている様子だった。普段室内で見ることはない砂や石、また以前食育で使用したポップコーン、米には特に興味を持つ子が多かった。
・楽器作りが始まると積極的に入れたい材料に手を伸ばし、集中して作っていた。ある程度入れ終わり、「もう一つ作る？」と声をかけると「作りたい！」と意欲的だった。何個も作っていいことが分かると、子ども達のほうから「今度はこのカップがいい！」など使いたい容器を伝えてくれる姿もあった。
・砂や米は小さいボトルに入れにくく、入れる中でこぼしてしまう姿が多く見られた。入れやすいように紙で筒を作ったが、あらかじめ一人ひとりにトレーを配るなどしたほうが、こぼれたものが床に落ちたりすることも少なかったと思った。また、こぼしてしまう対策以外にも、トレーがあったほうが、自分の場所が分かることでさらに集中して楽器が作れたように思う。
・入れる物によって重さが変わったり、振った際に大きい音、小さい音、と音の違いも感じられていた様子だった。子どもなりの表現で、「こっちのほうがなんかうるさい！」と言う子もいた。入れた物によって「こっちはなんだかきれいな音だね」と思ったことを素直に言葉にする子が多かった。
・材料が少なくなってきて、完成した容器を再度開けてまたボウルの紙皿に出して・・を繰り返している子がいた。もう少し早い段階で楽器作りを終えて、次の活動にいってもよかったと感じた。(使いたい材料がもうないということを指摘していた子もいたので)
・思った以上に完成した楽器を鳴らした音に興味を持ち、鳴らすことを楽しんでいたので、子ど

も達が好きな音楽に合わせて楽器を鳴らす、という活動を取り入れた。最初は子ども達のリクエストで「アンパンマンのマーチ」に合わせて鳴らした（1名は楽器作りは積極的にやっていたが、演奏になると参加しなくなった）。「もっとやりたい」という意見もあったので、時間配分を考えて童謡の「おもちゃのチャチャチャ」で再度演奏をすることに決めた。良い機会だったので、園にいる職員に集まってもらい、ミニ演奏会をすることを急遽決めて実施した。子ども達だけで鳴らしているときよりも、人前で楽器を鳴らしているときのほうが緊張気味の様子だった。たくさん拍手をしてもらい、子ども達も嬉しそうな様子だった。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】

・前回木の実を集めてから日にちが空いてしまったので、今後は子ども達の記憶が新しいうちに次の活動を進めていきたいと思った。保育者の想像以上に集中して楽器を作っていて、子ども同士でも声を掛け合いながら楽器を作れていた。手先を使う部分や、細かい作業もあったが、諦めずに自分でやってみようとする姿が見られ、成長を感じた。

・子どもの姿を見ながら、子ども達の好きな歌に合わせて楽器を鳴らしてみたり、最終的にはミニ演奏会へと繋げることができて、活動の幅が広がりよかった。

・自分で色々な材料を入れていくことで、毎回違う音や重さになり、子ども達もやってみながら様々なことを感じられていた様子だった。全て大人が決めて完成品を用意するのではなく、今後も機会があれば自分でやって気付いていく経験ができるようにしていきたい。

・「音」をテーマに決めた際は、最終的に本物の楽器に触れられたらいいな、と職員間で話していたが、今回のように子どもが自分で作った楽器は子ども自身も思い入れがあり、お迎えの際も保護者との会話のきっかけとなり、家に作った楽器を持って帰る子もいたので良い体験・思い出となってよかったと感じた。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
色

【設定理由】
日頃から色に興味があり、友達の好きな色を覚えたり、着ている洋服と同じ色を発見して嬉しそうに教えてくれる姿がよく見られる。また、ままごと遊びの中では、混ぜたら色が変わることをごっこ遊びの中で話してみたり、空の色の変化を不思議そうに見つめる子もいた。
子どもの遊びの中での様子を踏まえ、子どもが興味のある色や、混ぜたら色が変わる変化や発見を活動の中で取り入れてみたいと思い、「色」についての活動を行うことにした。
絵の具遊びは今までも何度か行っているが、今回は「混ぜて変わる変化」について、子ども達に肌で感じてもらいたいと思い、単色の絵の具から他の色を混ぜる活動を主に行うことにした。

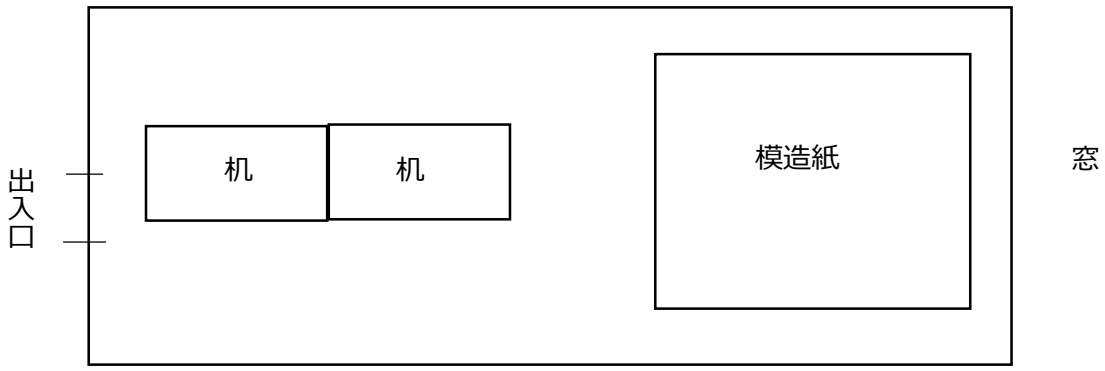
【活動スケジュール】
2025年4月以降　色に興味の持てる活動を行う
お絵描き（クレヨン）、はじき絵（ヨーヨー作り）
好きな色のシールを選び貼って遊ぶ
製作の台紙や折り紙で好きな色を選ぶ
「どんないろがすき」の歌絵本の読み聞かせ

2025年7月25日（金）9時45分～　絵の具遊び
（色の三原色、単色・混ぜて変化を楽しむ）

[活動①]

【準備する素材や道具、環境設定等】
・導入絵本「いろいろばぁ」
・机・椅子
・テーブルクロス（製作用）
・画用紙（白）人数分
・筆（人数分と予備）
・絵の具用バケツ（筆洗い用）
・バケツ（足洗い用）
・お皿、カップ（絵の具用）
・模造紙・新聞紙（模造紙の下に敷く）※床に貼る（養生テープ）
・濡れ布巾（製作用、複数枚）
・タオル（洗った足を拭く用、人数分）

※活動部屋
　2歳児部屋（机と椅子のスペースと床に模造紙のスペースに分ける）
　① 机・椅子のスペース
　② 模造紙のスペース
　　途中で移動して活動をする　　↓2歳児部屋



【内容】
2025年7月25日（金）9:45～
絵の具遊び（黄色・赤・青）
① 導入：絵本「いろいろばぁ」
② 画用紙（白）に絵の具と筆で描く（黄色・赤・青の3色から好きな色、1色を選ぶ）

③　もう1色、好きな絵の具の色（黄色・赤・青）を選んで混ぜてみる、画用紙に描く
④　模造紙に移動し、全身で絵の具遊びをする（単色の絵の具→さらに色を混ぜて楽しむ）
　　※使用する絵の具は赤・青・黄色の3色

【子どもの様子・振り返り】
・自由に色を選んでお絵描きをする中で、途中から他の色を足してみた。自分で混ぜることで色が変わる変化を感じられていた様子だった。また、単色でのお絵描きの際は、早々に手に塗って楽しんでいる子もいた。最初は足につくことは嫌がっていた子も友達の様子を見てやってみようと思ったのか、最後は足に塗って楽しむ姿も見られた。
・ただ描いているのではなく、聞いてみると「さかな！」と答えるなど、子どもなりに想像力を膨らませながら描いている様子だった。
・単色の絵の具に色を加える際、同じ色がいい！という子がいた。同じ色を入れて混ぜると、「変わらない」と不思議そうにする子もいた。色が変わる姿は想像していたが、変わらないことを不思議に思う姿は想像がつかない発見だった。
・活動を進めていくうちに、どの色を混ぜると何色になるのか理解していく子もいた。
・他の友達が模造紙コーナーに移動したことを気付かない程、画用紙でのお絵描きに熱中する子もいた。
・今度は3色だけでなく、もっと色々な色でやったら面白い活動になると感じた。
・事前に計画を立てて取り組めたことで、準備や活動中、片付け、子どもの動線がスムーズだった。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・今後は絵の具遊びをする際は、もっと子どもが自由に選んだりできる環境を整えたいと感じた。今回は筆のみだったが、スポンジやタンポなど、素材も自由に選べる環境にすることで子どもの興味や関心も深まると思う。
・色についての関心がさらに深まっているので、今後は色水でジュース屋さんをしたり、それを氷にしてお絵描きをしたり、かき氷作りをしたり、子どもがさらにイメージを膨らませて活動ができる工夫をしていきたい。

とうきょうすくわくプログラム　活動報告書

【目的】
子どもの「伸びる・育つ・好奇心・探求心」を応援するプログラムであり、子どもの豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探求活動を行う。

【テーマ】
色

【設定理由】
日頃から色に興味があり、友達の好きな色を覚えたり、着ている洋服と同じ色を発見して嬉しそうに教えてくれる姿がよく見られる。また、ままごと遊びの中では、混ぜたら色が変わることをごっこ遊びの中で話してみたり、空の色の変化を不思議そうに見つめる子もいた。
子どもの遊びの中での様子を踏まえ、子どもが興味のある色や、混ぜたら色が変わる変化や発見を活動の中で取り入れてみたいと思い、「色」についての活動を行うことにした。
絵の具遊びは今までも何度か行っているが、今回は「混ぜて変わる変化」について、子ども達に肌で感じてもらいたいと思い、単色の絵の具から他の色を混ぜる活動を主に行うことにした。活動①では絵の具を直接混ぜる活動を行ったが、今回は日頃から慣れ親しんでいる水を使い、「色水」としての活動を行うことにした。また、最近ごっこ遊びにも夢中なので、「ジュース屋さん」のごっこ遊びも合わせて行った。

【活動スケジュール】
2025年4月以降　色に興味の持てる活動を行う
お絵描き（クレヨン）、はじき絵（ヨーヨー作り）
好きな色のシールを選び貼って遊ぶ
製作の台紙や折り紙で好きな色を選ぶ
「どんないろがすき」の歌絵本の読み聞かせ

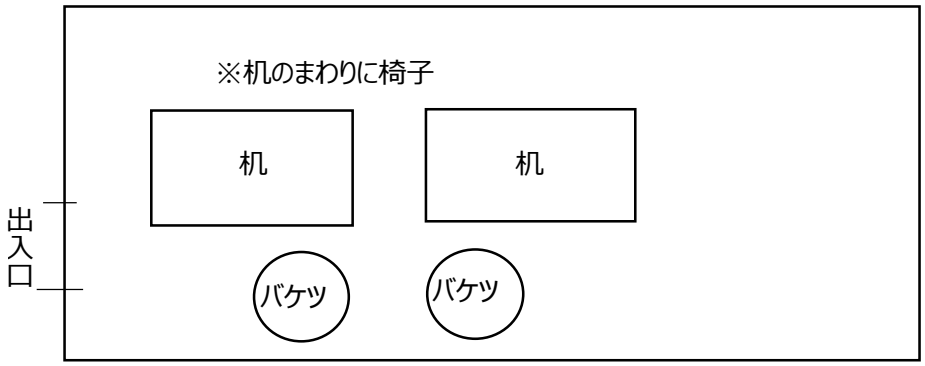
活動①2025年7月25日（金）　絵の具遊び　（色の三原色、単色・混ぜて変化を楽しむ）

活動②2025年8月25日（月）　色水遊び　9:45～（黄色、青、赤、白の色水を混ぜて遊ぶ）

［活動②］

【準備する素材や道具、環境設定等】
・机2台
・椅子6脚（子どもの人数分）
・バケツ（使用済の色水入れ）　　・バケツ（あらかじめきれいな水を入れておく）
・床拭きタオル数枚
・製作用タオル数枚
・小さいペットボトル（R1 ボトル）多めに用意（今回は24本）
　※水を入れて、蓋部分に絵の具を少量つけておく（子どもに体験してもらう）
・プラスチックカップ（透明）　多めに用意
・絵の具（赤、青、黄色、白）
・トレー（絵の具用）　2つ
・写真撮影用携帯
・導入用絵本「いろいろばぁ」

※活動部屋
　2歳児部屋（机と椅子のスペースを用意する）



【内容】
2025年8月25日（月）9:45～
色水遊び（黄色・赤・青・白）
※小さいペットボトルに水、蓋部分に絵の具を少量つけて用意しておく。
①　導入：絵本「いろいろばぁ」
②　保育者が見本を見せる。（ペットボトルを振って色水をつくり、コップでジュースをつくる）

③　色水をつくる。（子どもが体験する）
④　透明コップにボトルから色水を移す。
⑤　違う色の入ったボトルの色水を移して、色の変化を楽しむ。

【子どもの様子・振り返り】
・とても楽しんで集中して取り組むことが出来た。子どもが自由に色を作る過程で動き回ることを想定していたが、座ったまま集中して遊んでいた。
・子ども達も以前より色に関心を持てていた様子だった。前回は絵の具で赤青黄のみだったが、今回は白を加えた。ピンクが好きな子もいたので、白色を出したことで今回はピンクや水色ができて子ども達も嬉しそうだった。
・水遊びでカップやボトルに慣れていたこともあり、ペットボトルとコップの移し替えがとても上手だった。
・茶色ができた子どもに、他の子どもが「ココアみたい」と言葉をかけていた。他にも「オレンジジュース」「いちご」「にんじん」など、できた色水の色を見て、見立てて楽しむことができていた。

【全体を振り返って得た保育士の気付き】
・子どもが色々な色を混ぜてできた色が何のジュースに見えるか、声かけを工夫した。引き続き子ども達が見立て遊びを楽しめるように、保育者の声かけを工夫していきたい。
・今回の色水遊びをするまでに、絵の具遊びや氷に色をつける遊びをしていたことで、色の変化に子ども達が気付く機会が多くなっていると感じた。色の活動をするときだけでなく、日頃から遊びや生活の中で色に触れる遊びができるような機会をつくっていきたいと思う。
・友達がつくった色をもらって新たな色をつくることもできていた。今後も活動の中で子ども同士の関わりが深まるような機会をつくっていきたい。